企業・団体向け
防災プログラム

宮城県防災指導員認定者企画

2015年10月1日
提供開始！

予約受付中！

「知る」から「できる」そなえへ。

防災キャンプ そなえ

地震。津波。土砂崩れ。集中豪雨。天災はいつどこで起きるか分からない。
もしかしたら、明日自分や家族、大切な人のもとに、起こるかもしれない。
予測が全くつかない明日への備えはできているのだろうか。
万が一災害が起きた後、とっさに今やるべき行動を考えられるか、優先事項は何か。物資の備えだけでなく、心の備え。その「備え」をより強くするために、実際の震災を経験した場所で、本物を知る人から教わる本当に役立つ知識とスキルを身につけるためのプログラム。それが「防災キャンプ そなえ」

プログラム内容

沿岸地域を旅行中、大きな揺れに見舞われ、津波警報発令。近くの避難所に避難するところからプログラムは始まります。電気、水、ガスの全てがストップした状態。食事の確保やトイレ、寝床の準備。明るいうちに何をすべきか、刻々と変化する状況に対応しながら、その場にいる全員で協力し、ミッションクリアを目指す、避難所生活を再現したプログラムです。プログラム内では、実際に「東日本大震災」で避難所生活を経験した地域の方がガイドや語り部として登場します。避難所等の過酷な状況を知るだけでなく、自分の身や大切な人に万が一災害が起こった際に、自ら考え、行動できる人になることを目指すプログラム内容となっています。

01 被災エリアの視察

東日本大震災で大きな被害を受け、今なお復旧・復興途上のエリアを語り部ガイド同行で視察します。出発前には、南三陸町のことやプログラム内容について説明をするガイダンスを行うことで、より理解を深いものにします。

02 発災～避難

視察中、突如強い揺れに見舞われ、津波警報発令。高台に一次避難し、そのまま避難所まで歩いて向かいます。天候変化の予測や、津波再来時の避難経路の確認等、二次被害を受けずに安全な場所へ避難する力を身につけます。

03 避難所運営

インフラが全て停止してしまっている状況下では、明るい時間帯に物事をこなしていくことが重要です。また、状況は常に変わります。避難者である参加者には、刻々と変化する状況下で、いくつかのミッションが宣告され、グループで考え、協力をしながら避難所での時間を過ごしていきます。

04 震災当時の語り

震災時実際に避難所生活を経験した方や、当時を知る地域の方が語り部となり、震災直後や、今に至るまでのリアルな話をします。大変だったことだけではなく、その時に実際に役立ったものや、震災から得た教訓について触れることで、皆さんの未来に役立つ知識やスキルを得ます。それは「そなえ」そのものです。

05 防災力アップ研修

予告なく起きうる天災時は、必要な道具がその場に揃っていることはほぼありません。そのような状況下では、その場にある物で代用したり、作り出していくことがとても重要です。ここでは、東日本大震災発生時、避難所で実際に使われていた代用品や知恵を例にしながら、災害時に対応する能力を身につけていきます。

06 明日に備える シュミレーション演習

発災～避難、避難所での一夜、非常食や炊き出し、様々な訓練をしたうえで、発災時を想定したワークショップを行います。プログラムを振り返りながら取り組むことで企業や団体、そして個々の意識内の「そなえ」を確かなものにします。

プログラムで得られること

①震災、避難生活を知る。…… ほとんどの人が経験したことのない大きな自然災害を知ることは、「そなえ」に繋がる第一歩です。
②自助、共助、公助　災害発生時の優先順位を知る。… 発災時に大切だと言われるキーワードを、体験の中で考えて、いざという時の判断力へ繋げます。
③状況判断力を身につける。 …… 本番を想定した実践訓練の経験があるかないかは、実際の災害発生時の冷静な判断力へ直結します。
④チームワーク・リーダーシップを身につける。 …… 不特定多数が集まる避難所での生活や運営のために大切なスキルを実体験から学びます。
⑤工夫する力を身につける。…… 限られたもので、必要なものを作り出す能力は、想定外の発災時には大変役立ちます。

プログラム概要

実施時間

1泊2日（13:00 集合／翌 8:30 解散）
※プログラムの性質上、実施時間の変更は原則対応しておりません。
開始時間を遅らせる場合は、プログラムの途中からの参加となりますので、予めご了承ください。
※プログラム終了後、オプションで各種体験をつけることができます。詳しくは HP をご覧ください。

実施場所

歌津地区のフィールド、伊里前福幸商店街、平成の森

対象

一般企業・行政・協議会等の研修プログラム

人数

20 名～ 60 名

料金

18,000 円／人（税別）

プログラムお申込みにあたっての留意事項

①プログラム利用にあたっては、原則1か月前までのご予約が必要です。（オプションツアーも同様）
②電話もしくはメール・予約フォームからお申込み後、施設の空き状況等を確認の上、担当者よりご連絡致します。
③予約確定について：見積書と参加条件等が書かれた同意書をお送り致しますので、ご確認、必要事項ご記入の上ご返送ください。
当協会へ書類をいただいた時点で、ご予約確定となります。
④ご精算について：プログラム終了後、請求書をお送り致しますので、期日（催行日から1か月後）までにお振込をお願い致します。
⑤プログラム料金に含まれるもの：プログラム中にかかる体験 / 研修費（オプションツアー料金は別途）、ガイド / 講師料、施設使用料、宿泊料
備品使用料、食事 / 食材費 (催行1日目の夕食～2日目の朝食)
⑥プログラム料金に含まれないもの：保険料・集合場所までの交通費・貸切バス利用にかかる費用・プログラム時間外の飲食・その他個人的性質の諸費用等
⑦キャンセルについて：予約確定後、変更やキャンセルされる場合は、お早めにご連絡をお願い致します。
尚、お客様都合のキャンセルにつきましては、キャンセルポリシーに基づき、下記キャンセル料を申し受けます。
ただし、天候や災害、重大な事件等、お客様の安全を確保する状態ではないと当協会が判断した場合はプログラムを中止し、
この場合は双方ともにキャンセル料は発生しないものと致します。
（1） 30日前から15日前まで：20%
（2） 14日前から2日前まで：50%
（3）前日から当日：100%

プログラムご利用にあたっての留意事項（※必ずお読みください。）

・地震直後で電気・水道・トイレが使用できない想定でプログラムは進行致します。
また、刻々と状況が変わる当時の状況をよりリアルに再現するため、プログラム中の時間割は敢えて公表せずに開始致します。
万全な体調での参加、自己管理に努め、プログラムの主旨を理解した上でのご参加をお願い致します。尚、プログラムの開始時間や終了時間は変更できません。
やむを得ず、変更される場合は、プログラム内容を全て受講できなくなる可能性がありますので、予めご了承ください。
・プログラム中、各自持っている持ち物を回収することは致しませんが、携帯電話やＰＣ等電子機器類の充電等は行えません。
（※状況の再現具合は、運営側スタッフと参加企業様のご担当の方と事前相談の上決定致します。）
・安全・危機管理において経験豊富なスタッフで、参加者の安全には十分配慮して行いますが、プログラムの性質上、傷害保険への加入をおすすめしております。
お客様ご自身で加入いただくか、当協会でもお申込みいただけます。補償内容等詳しい情報についてはお問い合わせください。
また、プログラム中、万が一体調に異常を感じた場合は、速やかに現地スタッフにお申し出ください。
別室での休憩や病院へ搬送するなどの対応を致します。尚、プログラム催行時間以外の怪我や事故などについては一切の責任を負いませんので予めご了承ください。
・持病をお持ち等、特別な配慮が必要な方は予めお知らせください。また、常備薬をお持ちの方は必ずご持参ください。
・プログラム中の飲食は、原則的に配給や支援物資を想定した食材で作った食事となります。アレルギーがある場合は、予めお知らせください。
・災害時における避難所での生活は、助け合い・支え合いが基本となります。参加者同士の協力や主催者の指示に従うようお願い致します。
・大きな災害が発生した場合は、直ちにプログラムを中断致します。
会場にとどまり、安全を確保致しますが、会場の安全が保てないと判断した場合、最寄りの広域避難場所に移動致します。

南三陸町～震災からの歩み～

震災・津波の被害状況

○発生日時　2011 年 3 月 11 日（金）14 時 46 分 18 秒
○震源　三陸沖 震源の深さ約 24 ㎞ M9.0
○最大震度　宮城県北部 震度 7　/　南三陸町　震度 6 弱
○大津波警報　2011 年 3 月 11 日（金）14 時 49 分発表
○人的被害　死者 601 名　/　行方不明者 223 名
（平成 25 年 5 月 31 日）
○家屋全半壊　3,299 棟

○人口減少　17,666 人（2011 年 2 月）
→14,028 人（2015 年 4 月）
○災害廃棄物処理約　63 万ｔ　100%処理済み
○仮設商店街　歌津 (2011 年 12 月) 志津川 (2012 年 2 月) 両地区にオープン
○病院建設　被災して仮設診療所が開設中
27 年内に完成予定

現在の南三陸

未曽有の震災で、失ったものはとても多く、大きな悲しみに包まれた南三陸町。しかしながら、その絶望の中でも、光を見失くことなく、前へ歩み始めた人々がいます。その一歩一歩が、今の南三陸町に繋がっています。

▲被災エリアをかさ上げして町びらきを推進中。住居を高台に構え、中心部には公園や商工業、観光交流拠点を形成する職住分離の考え方で町づくりを進めている。

▲甚大な被害を受けた水産業は地域の方々が復旧・復興にあたり震災以前の水揚量に回復している。
魚市場水揚量 8,484ｔ（2009 年）
→8,566ｔ（2013 年）

▲ＪＲ気仙沼線は「柳津～気仙沼」区間で運休中となっているが、2012 年 12 月よりＢＲＴ（バス高速輸送システム）で運行開始。鉄道敷を順次専用走行区間に整備している。

主催 / お問い合わせ先
宮城県知事登録旅行業 第 3-330 号
一般社団法人南三陸町観光協会 宮城県本吉郡南三陸町志津川字御前下 51-1
Tel 0226-47-2550 / Fax 0226-46-3080 / Mail post@m-kankou.jp

南三陸町観光協会　検索

当協会のホームページでは催行中のツアープログラムや最新のイベント、宿泊施設、アクセス、飲食店の情報を公開しています。

協力：南三陸町、太平ビルサービス株式会社、南三陸町復興推進ネットワーク、伊里前福幸商店街、南三陸ラーニングセンター、公立大学法人 宮城大学